



2017J2 ■順位表☆暫定■第33節

勝点、得点、失点、得失点差、
岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

(*つきは消化試合が1つ少ない)

1	湘南	70p	44	26	+18	A△
2	長崎	59p	42	35	+7	H△ A●
3	福岡	58p	42	28	+14	A●
4	松本	55p	52	31	+21	H●
5	横浜FC	53p	47	34	+13	H● A●
6	名古屋	53p	61	53	+8	A△
7	徳島	52p	55	35	+20	A△
8	東京V	51p	49	38	+11	A●
9	大分	51p	44	40	+4	H●
10	岡山	49p	38	36	+2	A△ H△
11	千葉	47p	51	49	+2	H● A○
12	山形	46p	34	39	-5	H△
13	水戸	45p	36	36	0	H○ A○
14	町田	44p	43	39	+4	A○ H●
15	岐阜	43p	45	45	0	---
*16	愛媛	43p	40	47	-7	A● H○
*17	京都	38p	41	42	-1	A△ H○
18	金沢	33p	33	57	-24	H○
19	讃岐	31p	36	48	-12	A○ H●
20	熊本	30p	29	44	-15	H● A△
21	山口	25p	37	57	-20	H△ A○
22	群馬	18p	22	62	-40	A○ H○

次回HomeGame

第35節 vs.名古屋グランパス

10/1 (日) 15:00

@岐阜メモリアルセンター

長良川競技場

大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱東京UFJ銀行隣り)

年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

Living in Woods

本庄工業株式会社

<http://www.honjo-woodream.com/>

岡田歯科医院

岐阜市加納新本町1-23
tel:058-273-8998

today's guest : **アビスパ福岡**

2016 J1 4勝7分23敗 勝ち点19:18位

直近の対決と結果

2017/07/01

J2-21節@レベスタ

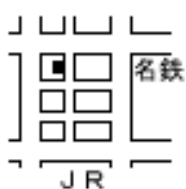
福岡 1-0 岐阜

ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	アビスパ福岡
2017/09/16 J2-33節@維新公園 山口 0-1 岐阜	2017/09/18 J2-33節@えがおS 熊本 1-1 福岡
2017/09/09 J2-32節@K sスタ 水戸 1-2 岐阜	2017/09/09 J2-32節@レベスタ 福岡 0-1 愛媛
2017/09/03 J2-31節@長良川 岐阜 2-1 愛媛	2017/09/02 J2-31節@ピカスタ 讃岐 2-2 福岡

●9/3 (日) 第31節・ホーム愛媛戦。前節の千葉戦で4試合ぶりに勝利したFC岐阜は、この試合でも積極的にペースを掴み、#14 風間宏矢の2試合連続ゴールで先制する。しかし、後半途中からは愛媛に押し込まれて同点に。その後も苦しい時間帯が続いたが、終盤にCKを#24 難波宏明がヘッドで決めて決勝点。2-1で今季3度目の連勝を達成した。続く9/9 (土) 第32節・アウェイ水戸戦では、試合開始わずか2分で失点し、リズムを崩してしまう。しかし何とか前半をしのいだ岐阜は後半に盛り返し、相手のオウンゴールを呼んで同点に。そして、試合終了直前にCK崩れのクロスをも#5 青木翼がヘッドで流し込んで2-1。見事な逆転劇で今季2度目の3連勝を飾った。そして、アウェイ連戦となる9/16 (土) 第33節・山口戦。序盤から試合の流れを掴んだ岐阜は、相手選手の退場によってさらに優位を増す。しかし、完全に引いて守る相手を崩しきれずに時間が過ぎていき、このまま引き分けかと思えたが、またも試合終盤に#24 難波宏明の技ありヘッドで決勝点を奪い、1-0。クラブ史上では09年、16年に続き3度目の4連勝を達成した。

この結果、FC岐阜は勝ち点を43まで積み上げて、台風18号の影響で暫定だが順位を15位に上げた。21位・山口を直接対決で倒したことで、残り9試合で降格圏との勝ち点差は18。J2残留争いの目安として、下位チームが縮めることのできる勝ち点差は1試合で約1点と言われており、また、過去の傾向で残留確定ラインは、おおよ勝ち点43。つまり、FC岐阜は今季のJ2残留を、ほぼ手中にしたことになる。また、33試合経過での勝ち点43は、現時点ではJ昇格以来の成績だ。しかし、ここで満足する訳にはいかない。まだ、9試合も残っている。上位の勝ち点差6以内に10位・岡山が、そして勝ち点差10で、6位・名古屋が射程圏内に入ってきているのだ。ここからは上位との対戦が多いため、厳しい試合が続くことが予想されるが、これからも、1試合毎にひたむきに戦い、勝ち点を積み上げ、順位を伸ばしていくことが求められている。さて、今節の対戦相手は、アビスパ福岡だ。昨年は1シーズンでJ2に降格が決定したが、“アジアの壁” 井原正巳監督3年目体制の下で戦力を補強し、今年は1シーズンでのJ1復帰を目指しているチームだ。今シーズンは序盤から上位につけ、シーズン中盤からは湘南との2強で激しい首位争いを演じてきたが、しかし、ここ6試合では3分3敗と調子を落とし、現在は3位に後退、このままではプレーオフ圏も危うい状況になってしまっている。その最大の原因は、現在15得点とチーム総得点の3分の1を叩き出している#17 ウェリントンの不在だろう。この6試合中、累積警告で2試合欠場、そして前節も暴力行為のペナルティで欠場と、3試合をエース不在で戦っている福岡。今節もまた、その絶対的エースを欠く。岐阜にとっては有利な状況だが、しかし、これまでの両チームの通算対戦成績は、岐阜の3勝3分11敗、14得点25失点と、福岡が圧倒的に優位な成績だ。ホーム戦でも戦績は非常に悪く、0勝1分7敗3得点17失点。そして、“手負い”の福岡といえど、まだまだタレントは揃っている。6得点の#16 石津大介や、15シーズンには岐阜に在籍していた#29 ジウシーニョ、マリノスから期限付移籍の#24 仲川輝人には要注意だ。また、京都在籍時に共に大木サッカーを支えた#33 山瀬功治と#15 田森大己とのベテラン対決あるいは、その京都でチームメイトだった#16 福村貴幸や#28 永島悠史との対決、そして#6 シシーニョが“あこがれの選手”と公言する“福岡のキング” #10 城後寿とのマッチアップにも注目したい。いつの間にか厳しい暑さの夏も過ぎ、再びデイゲームとなる初めての試合。現在の4連勝の勢いを保ったまま、“実りの秋”を迎え、そして今シーズンを終えられるよう、これからも選手たちの背中を後押しする拍手と声援を送りつけよう。(ささたく)



「いらっやいませ」より「おかえりなさい」が似合うアットホームな韓国料理店。『チヂミ屋』はJR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。休:月曜日

投稿募集!!

gidaidohri@gmail.com

【第31節】岐阜 2-1 愛媛

●千葉みたいに「自分たちの長所・ハイラインと攻撃力を活かしたサッカー」を競ってくるのではなく、「こちらの長所を封じてくるサッカー」をするのが、今年の愛媛だと僕は思っている。だから、たぶん守備の蓋をしてから序盤から攻めあぐねて…あれれ？確かに愛媛の守備は引いてるんだけど、そんなに上手くいっていないような…と思っていたら、#14 風間宏矢のミドルシュートでゴール！前節ハットトリックで気をよくしている選手ならではの距離感だろうなあ…（笑）。この後も、何度か惜しいシーンはあったものの、決めきれないまま前半は終了。後半も、開始直後は岐阜のペースだったと思うんだけど、あれは…#7パウロが相手GKと接触プレーで倒された頃からのかな？岐阜のバランスが崩れたのか、それとも愛媛の圧力が増したのかな？愛媛に得点のチャンスが増えてくる。岐阜の守備陣も耐えていたし、また攻めてもいたけれど、ゴール前のマークの甘さを突かれて、人数はいたのに同点にされてしまう。もったいない失点だった。その後はさらに勢いを増した愛媛の攻撃に耐える岐阜。試合終盤に奪ったCK、サイドを変えつつ3回目。ファーに飛んだ#23小野悠斗のキックは美しい弧を描き…DFと競りながら#24難波宏明が豪快なヘッドで追加点！沸き立つゴール裏に向かって駆けてくる難波…あ、ユニ脱いじゃった（苦笑）。まあイエロー1枚もご愛敬の、値千金のヘッドでした。これが決勝点となって、2-1で連勝！…連勝って、いつぶりかな？4~5月の時以来なのか…これまで、なかなか勝てない試合が続いたけれど、こういう試合をモノにできるようになったのは、少しは成長してる…って、大木監督は連勝しても、安定の「激おこ」インタビューですね（苦笑）。ともあれ、これで10周年記念ユニが縁起悪い代物にもならなくてよかった（笑）し、シーズン終盤での連勝は大きい。でも、大木監督も怒っていたとおり、反省点も見られる試合だった。まだまだ、これから。より進化するFC岐阜を魅せてほしいものです。（ささたく）

●序盤から、「なんでそんなに岐阜をリスペクトしてくれるの？」と思ってしまう愛媛の布陣。5-4-1で、攻撃の中心選手・えな……じゃないや河原も守備に忙殺。コーヤのコントロール・ミドルの先制点は見事だったけれど、その後も押し込みながら、今季序盤のように「押し込んでいるだけ」じゃなくて戦線がしっかり連動して絡んでチャンスまで行っている。追加点が奪えなかったけれど、前半は1点リード。でも、ぼくは不安だった。というも。

以前、某JFLチーム・サポの忘年会に呼ばれたことがあって、そこに1人の選手が顔を出してくれた。酒の勢いもあって、ぼくは彼に「テレビ中継だとアナウンサーが解説さんに『先制点が欲しいところですよえ』って話しかけるけど、そんなの当たり前ですよ」と訊いてみた。するとその選手はきっぱりと「そんなことはない、前半は同点、1点ビハインドでもいいんだ。後半に修正できるからね」と応えてくれたのだ。1点ビハインドでもいい。前半の戦い方が、ハーフタイムでの1点ビハインドが、すべて愛媛・間瀬監督のコントロールの下にあるのだとしたら。

後半、愛媛は戦い方を変えた。特に小池純輝をSBに入れてからは2列目が自在に前線に顔を出し、前半のイケイケタイムで動き過ぎた岐阜は全員の脚が止まって防戦一方。ぼくは1点リードの状態ですら「逆転負け」を覚悟した。それくらい、両者のサッカーには差があった。やはり、前半の開始早々、将棋で言えば初手・7六歩から、愛媛にコントロールされていたということだ。同点にされてからは、そのまま勝ち点1が取ればOK。そう思っていた。しかし、ユートのCKから難波のヘッド。彼はそんなに身長が高いわけではない。それなのに、あそこで競り勝ってしまうなんて。もちろん、ピンポイントで難波のいるところに落ちてくるユートのプレースキックの精度も大したものだけれど、難波のポジショニングはこれこそストライカー、仕留める仕事をする男だ。

『勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし』はよく言われる表現だが、愛媛側からしたら「なんで負けたのかわからん」という試合だったのではないかな。戦術は完璧だったのだ。もちろん、岐阜側からすると「なんで勝てたのか」はわかっている。全員が、最後まで、戦っていたからだ。今季、「これは勝てる」という試合は勝っていた。「これは厳しい」という試合は落としていた。おそらく今季初めて「これは厳しいぞ」という試合をモノにした。現時点で、ぼくにとって今季の『ベストゲーム』だ。（吉田铸造）

●DAZNに加入してるんだから見直すのはあたりまえ、のフルタイム配信。ところが、途中で何度か画像が跳ぶんだ。戻して見直しても、やっぱり跳ぶんだ。「どうしようもねえなあ、オイ。」と苦笑いしてたら、一番肝腎なナンちゃんの決勝ゴールが跳びましたよ、と。悠斗のCKからナンちゃん脱ぐトコまでゴソツと……。さすがに、啞然としましたが、まあ、勝ったから許そう。（ちなみに、数日後には直った模様）。それにしても劇的な試合。さらに、前半の素晴らしさ。こんな早いうちからハイプレス掛けてて大丈夫か？と思ってたら、案の定。いや、プロレス興行みたいな展開でしたワ。ゴール裏に近い方のコーナーには、モロに悪役が現れるし。あと、宏矢のシュートのゴラッソっぷりったら、もう。ついに覚醒か？覚醒したのか？……、と思いつつ、いやいや、後半のシュートを決められないようではまだまだ。でも、ベスト・ゴール選出、おめでとう！

ところで、前回だったか、本紙に「先取点が大きな意味を持つのは論を待たない。」と書いたんだが、先日、あるサッカー選手が「やっぱり、先取点って大事ですよ？」という質問に対し「いや、そうでもないです。0-1までなら問題ない。後半はやり方を変えるだけですから。」と答えたというのをどこかで読んで、自分が今まで思っていたことの正反対だったので、目からウロコというか、本当に驚いたんだけど、この愛媛戦はまさにそんな感じの展開で、ヘタしたら逆転負けあるで……というところまで追い詰められましたね。ベスト・ゴールが宏矢なら、ベスト・セーブは田森だな、ウン。あの瞬間は「あ、ヤラれた……。」と確信してたのに、ネットが揺れるどころか、ボールが跳ね返ってきて、ポストに当たったのか？ポスト様、グッジョブ！と思っちゃうような。いつぞやの庄司と同じくらいに値千金のセーブでした。ただね、どうしても、DAZNを見直しても腑に落ちないコトが一つ。それは、ソレを境に潮目が変わった、あるいは、ソレを合図に愛媛がスイッチを入れた。そういう節目になったかのような一つの判定。パウロと愛媛GKが交錯して、パウロがファールを取られ、愛媛FKで再開された場面。アノ瞬間、ボクは「あ、こりゃGK退場あるな。」と思った。何しろ、PA外で先にボールに触れたパウロへのレイト・チャージだったから。ところが、判定はパウロのファール。それも、主審、副審ともに、である。いや、主審、副審ともパウロのファールって言ってんだから反論の余地ないでしょ？というのが世間一般の意見かと思う。だが、そうじゃない。少なくとも、副審よりはボクの位置からののがよくわかる。オフサイドラインは副審に委ねるしかないが、PAエリア・縦ラインの位置は縦の関係で、さらにゴール裏の高い位置から見下ろしているボクの方がわかりやすい。何しろ、副審とこのラインの関係は先日のフクアリ（千葉 vs 讃岐）で実証したばかりじゃないか。肝腎の主審がどの位置にいたかは確認できなかったが、普通にプレーを見てればわかるハズ。だって、愛媛のGKは頭から突っ込んできたんだよ？

解説の戸塚さんが「ヘディングでクリアしようとしたんですね〜。」って言ってたから、ああ、そうだったのか、と思ったけど、いずれにせよ、PAエリアの外と判断したから、手を使わないプレーを選んだんでしょ？PA内ならGKが保護されるのはわかるけど、PA外ならただのフィールドプレーヤーじゃん。ハイキック、顔に当たったからパウロのファールとしたのかもしれないけれど、パウロが宙に浮いてるボールを

トラップしにいった足辺りへ突っ込んでるんだから自業自得じゃないか。しかも、先にボールに触ったのパウロだよ？軸足だけでボールをコントロールしようとしてるところ、無防備なところへ体当たりされて、よくケガしなかったなど。見逃し配信見た今この時も、ボクは主審、副審双方の誤審だと思ってる。

もちろん、個人的な意見であり、検証はリーグとクラブに任せるしかない。当然、判定が変わるはずもないことも理解している。ただ、試合後に観戦仲間から「今季から判定に対して誤審かどうか？の発表がある。」と聞いた。ぜひ、見解を知りたい。後学のために。正しい見方、基準を身につけたいよね。でも、カードが出たり、退場したり、PKだったり……じゃないんで難しいかな？

それと、もう一つ。愛媛のGKへのブーイングについて。恥ずかしながら、積極的にブーイングした。たぶん、先頭を切った、かな？家族とも思うウチの選手が壊される場所だった。しかも、謝るところか、パウロに突っかかる勢いだったから。もちろん、ウチの選手には冷静でいてほしい。報復プレーなどしてほしくない。その代り、と言っただけが向こうのGKに抗議したかった。あんなプレーをした選手をリスペクト？なんて、少なくともこの試合中はムリ。久しぶりに、頭に血が上ってしまったのだけれども……。ふと、気づくと、ボクの前にいた若い女性が、お子さんの耳をふさぐようなしぐさをしていた。そう、ブーイングが起こるたびに。4～5歳くらいの男の子を連れて若いご夫婦。その様子を見た途端、「あ～、やっちゃったなあ。」と。我に返った、というか。でも、その若いお母さんは、ナンちゃんのゴールの時にハイタッチの手を差し出してくれた。試合が終わった時には、その男の子もハイタッチしてくれた。何か、救われたような気がした。コリリにも「あんなのダメですよ～」と言われた。今後気をつけます。ごめんなさい。(ぐん)

【第32節】水戸 1-2 岐阜

●かつて、水戸が「笠松運動公園」で試合を開催していた時は、勝率がよくて負ける気がしなかったんだけど、今のK sスタになってからは、ほとんど勝てていないアウェイ戦。しかも、今季は12試合連続でホーム負け無しなんだとか。でも、今年こそは勝って3連勝を…そんな思いで乗り込んだ水戸の地。さて、水戸で最も注意しなくてはならないのは、当然ながら#38前田大然。パスを奪われてカウンターを仕掛けられたら、あのスピードにはついていけない…って、おおい、試合開始早々に、その#38前田大然に守備網を破られて失点って…(溜息)。幸先が思いやられる失点シーンだった。

ただ、その後は上手く相手のカウンターをケアしながら攻撃を仕掛けていたと思う。しかし、なかなか水戸のゴールをこじ開けられない。何度か決定的なシーンをつくるのだけれど、そこを水戸のGK #21 笠原昂史がビックセーブ連発ではじき出す。これが“ミスターホーリーホック”#1本間幸司を控えに追いやったGKの実力が…そーいや、今シーズンのD A Z N週間ベスト5セーブに、ウチの#25ビクトルと同様、よく出てきてなかったっけ？やっぱ優れたGKは重要だなあ…などと僕は考えていた。しかし、諦めずに何度も攻撃を繰り返せば、守備に狂いが出てくる訳で。#11古橋亨梧のクロスに#10庄司悦大が飛び込んできたから、それに気をとられた相手DFの足に当たってオウンゴール！まあ攻撃するから得点になる訳で、結果オーライ！(苦笑)さらに攻める岐阜。しかし、時間が過ぎていき、このままかと思われたCK崩れを#5青木翼が柔らかいヘッドで流し込んでゴール！歓喜する岐阜サポ。…って書いてて気がついたけど、なんか前節と似た決勝点じゃないこれ？(笑)

出場停止の#2阿部正紀が変わって、久しぶりに出場した#5青木翼が、きちんと結果を出してくれた。このことも、控え選手の勢いを増してチームを活性化させるために、非常に大

事なことだ。もちろん失点シーンは猛省しなくてはいけないけれど、今季2度目の3連勝と共に、何か良いきっかけになってくれそうな、そんな勝利だった。(ささたく)

●いや～、それにしても強い勝ち方。うん、あえて、そう言っておきましょう(笑)。

ただ、開始1分で先制された時には「どうなることか……。」と思いましたが、ホントに。単純なGKからのロングボールを頭で二回繋がれてズドン。それも、気をつけなきゃいけない前田大然に。しかし、ウチがDFが足りなくて抜かれた場面は何回も見ただけ、最終ラインが全員揃ってるのに抜かれたのは初めてかもね？まあ、単なるクリアミスですけど。次からは気をつけよう、福村。失点以降もペースは水戸だったけど、徐々に流れはこちら側に。たぶん、悠斗が逆足で撃つような気がする。ただ、前述の翼のシュートを始め、ことごとくセーブする水戸の笠原。ホント、ジャマくさい(苦笑)これじゃあ、オレ達の本間さんがベンチなのも仕方ないワ。それでも、度重なる攻撃に遂に水戸の壁崩壊！徐々にオ・ウンゴル選手の得点で同点！！その後は水戸に押し返される場面もあり、あわやのシュートも喰らったが、ソコはビクトル。ホントに頼りになるわ～。そして、とうとうその時が来たっ！CKからのクリアを再び宏矢が入れると、それに合わせたのが翼。ヘッドでのシュートは右ポストに当たり、そのままゴール。仲間と歓喜の抱擁、ハイタッチ！！で、ビジョンを振り返るとそこには『4分』の表示。長げーよ！と思わず叫んでしまったが、実はゴールがすでにATだった。それからまた長かったけど凌ぎ切ったの3連勝！春先以来ですか。ごぶさたしてましたね、また、お目にかかれてよかったです。ちなみに、水戸が今季、ホームのケーズデンキで負けたのは開幕節の湘南戦以来二回目だとか。どんだけホームで強いんだ！?水戸サン。だから、今の順位にいるんだね。見習わなきゃな。あと、同点に追いついてからのチャント『Boys in Green』。バツグンのタイミング！まさにハマった感じ。その長回しがアノ逆転ゴールを生んだ。そう言いきっちゃっていいと思うな。水戸との試合では恒例となった『アニサカ』のゲーフラ要員として、『信長の忍び』の美濃の蝮・斉藤道三を掲げる役目を果たせし、試合後の祝勝会の帰りに偶然スペイン・コンビと会えし、もう言うことなしの水戸の夜。毎年こんな感じだとイイな。(ぐん)

【第33節】山口 0-1 岐阜

●世間では台風18号の影響を心配して、西日本方面への旅行などはキャンセルが相次いでいる中でしたが、台風の進路図と天気予報と、山口の公式HPを何度も入念にチェックし、「よし、試合は開催されるぞ！帰りは観光あきらめて朝イチで帰れば何とかなる！」と、山口遠征を決行したのが僕だけではなかったのは、維新公園に行ってみて証明されました(苦笑)。

さて、この時点で21位と苦しんでいる山口。そして勝ち点40まで積み上げた岐阜。この試合に勝てば、ほぼJ2残留を手にするようになるんだけど、こういう試合に弱いのがウチの傾向なのよね(苦笑)。何より、向こうは絶対に、死にものぐるいで向かってくる。それは僕ら岐阜サポが一番よく分かっている。守備を固めてカウンターあるいはセットプレーに勝負を掛けてくる。その固い守備を…あれ？なんか、守備が予想していたよりも緩い？監督が交替してから、山口の戦術が変わっているのは知っていた。だけど、開幕戦で見せつけられた、あのシステムチックに連動する山口の攻撃は、少しは残っているものだとばかり思っていたのだけれど、それも見あたらぬ。3連勝中でウチが調子よくボールを回すことができているとはいえ、半年でここまで違うとは…。山口の#28レオナルド・ラモスが肘打ちで一発退場になって、さらにボール支配率は岐阜に傾く。しかし、一方で山口は守備へのシフトをさらに強めて、ほぼ引き分け狙いの展開に。こういう膠着状態だと10人の側が、カウンターあるいはセットプレーで

の1点を守りきって勝つなんてのも、またよくあるサッカーで。それを気にしながら時間がすすんでゆく。これはさすがに、グダグダの引き分けで連勝は止まるか…と頭をよぎる試合終了間際、#23 小野悠斗がゴール前に入れたボールに、相手DFの裏をとって抜け出した#24 難波宏明が、技ありのバックヘッドで軌道を変えて、ゴール隅にボールを「置いた」…これが先制点！そして決勝点！難波半端ないって。アイツ半端ないって。86分に途中出場して、90分にワンプレーで試合決めるもん。そんなできひんやん普通（笑）。まさに「仕事師」。ありゃ、山口サポのダメージはでかいだろうなあ…。

これで、勝ち点43。いわゆる“残留ライン”を超えた。おそらく、9月中旬にJ2残留をほぼ確定させたのは、これが初めてかな？今シーズンが終わった訳ではないけれど、これで、フロントは来年の話ができる。その準備が早いほど、来シーズンの成績にも影響してくる。そういう意味でも、この勝利は本当に大きなものになった。さて、しかしこうなるとクラブ史上初の5連勝も達成したくなる訳で（笑）。相手は厳しい相手だけれど、最後まで諦めずに応援します！（ささたく）

●いや〜、長かった。ナンちゃんのシュートが放たれてからネットを揺らすまでの時間があまりにも長く感じられて、「ゴールをはずれた？」と本気で思ったくらい、実際にはコンマ数秒程度の出来事。「ココに出せ！」と悠斗に合図して走り込んできたナンちゃんのスピードと、変な回転のかかったシュートとのギャップがスゴすぎたよ（苦笑）。

台風18号の真ただ中での荒れる試合を心配してるのに、さらに山口のホルリから「岐阜にだけはゼッタイ負けたくない！」と試合前から因縁吹っかけられて（笑）、どうなることかと思っただけでも、台風が試合終了まで待っててくれて、観戦しやすい天候での試合となったワケなんだが……。パス1000本超えて、なんですか？シュート22本って、どうですか？そのうち枠内16本って、ホントにウチですか？（数字うる覚え。でも、調べませんw）そりゃ、勝つよ！……と、胸を張って言いたいんだけど。4本だったけどヤバかったね、山口のシュート。全部枠外だけど、タイミングとかは冷や汗レベル。数的有利で、圧倒的に押し込んでいながら、ひとつのミス、カウンターでウノゼロ……なんてよくある話だけに肝を冷やされました。

キックオフ直後は最前線からプレスを掛けてきた山口に手こずって、ロングキックに逃げてたけど、数分も経たない内に宏矢のループが山口ゴールを脅かす。その途端に、プレスに来る相手を交わしてのパスが繋がりはじめ、逆に山口の動きが曖昧、あやふやでアタフタしだして、もうソコからはずーとウチのターン。そんな中でラストレーションが溜まっていたせいもあるんだろうが、山口のアルヘンティーノFWが一発退場。気の毒だけど、あのヒジ打ち弁解の余地なし。赤紙は至極妥当。そうすると、もう山口は全員引きこもりで引き分け上等の構え。あとは、ウチの横パスを引っ掛けるか、ミス待ちのカウンター一辺倒。ただ、そんな相手を散らして、剥がして、ウラを取る、タテに入れる、など好き放題にやり始めたウチの選手には目を見張らされた。いかに、相手が降格圏やむなしだなあとわかる状態、しかも数的不利の山口とはいえ、こちらも夏までのパス回しとは全然違う。そして、パスをさらわれてもチェイス、ブロックがほぼカンペキで、サクッとボールを奪い返すなど。全員がシシーニヨみたいたったと言ったら言い過ぎかな？試合を通じてのボール支配率が70%って出てたみたいだけど、プレーエリアも8割以上が山口陣内だったよね〜、というのが現地での体感。

ただね。シュートがことごとく、相手GKのイイ練習になってしまった（苦笑）パントキックとかはアラアラなGKだったのに。後半はあからさまに時間稼ぎしてたのに。ホント、この内容で勝ち点1では納得出来ないよ！という思いが強くなったAT突入直前。ナンちゃん！スーパー・ゴール！……には違いないんだけど。冒頭に書いた通り、ヘンな回転のせいか、なかなかゴールラインに到達してくれなくて。一瞬、ボー

ルが視界から消えたように見えたり、感覚的にはこの試合のATより長かった。いや〜、勝つってタイヘン。勝つって、素晴らしい！

でもね、試合前から、最寄りの大歳駅に着いた時から確信してましたよ、勝利を。ボクが乗ってきたのと同じ電車から下りて来た一人の外国人女性。『鄙には稀な』を地で行くような女性に、いきなり「岐阜サポーター？」と聞かれてビックリ！なんと、ウチの守護神の奥様でした！！片言の英語で四苦八苦しなからコミュニケーションを取り……（というより、彼女に理解してもらってただけ）、スタジアムまでエスコートする荣誉に浴することが出来るとは！スタジアムに到着して、席はどこかと尋ねたら、ピクトルが用意してくれてると言いつつ（たぶん）見せてくれたスマホには山口のインフォメーションの画像。それでは、と案内したら、英語にも堪能な担当の女性スタッフさんがチケットと共に花束をプレゼント。なんとというサプライズ！感動して思わず、お礼を言っていました。グッジョブです！山口スタッフ様。結局、メインスタンドの入場口まで送ったワケだが、守護神の奥様と言えば勝利の女神も同然。そりゃ、勝つのは当たり前さ。あ〜、山口。美味しかったよ、山口。祝勝会をやった駅ビル内の居酒屋も素晴らしかったし、ホテルも駅脇で朝ごはんバイキングも満点を差し上げる。だから、ちゃんと残留してね？岐阜だけには勝てなくても、どこから取っても勝ち点3は勝ち点3だから。コレ、試験に出ます。がんばってね、残留試験。（ぐん、）

【ユース&ジュニアユース】 岐阜県1部での戦い（と結果）

●我らがFC岐阜ユースU-18（以下FC岐阜ユース）は今年岐阜県内のユース世代のトップリーグであるG1リーグに参加しています。夏の中断期間を終えて8月末にリーグ戦が再開していますが、9月2日の第11節帝京大可見B戦を2対0で、9月9日の第12節岐阜商戦を5対1で、9月16日の第13節関商工戦を6対1でと順調に連勝を続けています。その甲斐もあって、第13節終了時点では勝点31にFC岐阜ユースと中京高校、各務原高校の3チームが並ぶ大混戦となっています。そして昨日9月23日（土）には第14節大垣工業戦が有った筈ですが、結果はどうだったのでしょうか？

この後は国体の関係だと思われる日程変更が有り、10月7日（土）に中京高校で第16節中京高校戦（10時K.O.）、10月9日（月）に島西グラウンドで第15節各務原高校戦（15時K.O.）が予定されています。首位争いチームとの連戦になりますが、G1リーグ優勝の為には絶対に負けられない試合です。トップのホーム試合とは重なっていませんので、行ける方は是非応援に行ってやって下さい。

●もう一つ、ジュニアユースの話題を。今シーズンFC岐阜U-15は岐阜県U-15リーグ1部に参戦していましたが、10チームによる2回総当たりのリーグ戦の結果、15勝1分2敗の勝点46で、見事優勝を決めました！！

この後は東海地域リーグへの入れ替え戦があるとの事です。日程等の詳細が分かりましたら又共有させて貰います。（因みにFC岐阜U-13チームは既に今年東海地域リーグに参戦しています）

頑張れよ、応援しているからな！！FORZA！FC岐阜ユース&ジュニアユース！！

※試合会場・時間は変更される場合が有ります。必ず岐阜県サッカー協会やチームの公式サイトで確認して下さい。（シュナ）